

## 大河津分水

越後平野は信濃川・阿賀野川の流出土砂が沖積して出来た平野で、鎧潟・鳥屋野潟など潟に代表される低湿地のため、古くから降雨が続くと河川の氾濫に見舞われていた。

水害から人々の生活を守るため、信濃川が日本海の近くを流れていた大川津付近から寺泊須走浜へ約 9km を掘り割る分水計画が、享保年間（1716～1736）に本間数右衛門によって計画されたが、莫大な経費が掛かることなどから、江戸幕府は許可しなかった。

ついに帝国議会は明治 40 年の 15 ヶ年の継続事業として分水工事を決定した。総事業費 1,300 万円。大正 13 年（1924）に完成したが、5 年後の昭和 2 年に自在堰が陥没したため、新しい可動堰が同 6 年に完成した。現在では、河川の堰としては珍しい円弧状に動くラジアルゲートが 6 門設置され、平成 23 年 11 月に通水した。

